

# 進化経済学会ニューズレター

No.56 August 2024



(雨上がりの夕焼け 撮影：横田宏樹)

進化経済学会事務局

〒564-8680

大阪府吹田市山手町3丁目3-35

関西大学政策創造学部

徳丸宜穂研究室

\*\*\*\*\*

- ✓ 第 28 回進化経済学会福井大会を終えて
- ✓ 第 29 回進化経済学会関西大会（関西大学）オータムカンファレンスのご案内
- ✓ 第 28 回進化経済学会福井大会総会議事録
- ✓ 第 28 回進化経済学会福井大会理事会議事録
- ✓ 進化経済学会会勢状況
- ✓ 第 28 回進化経済学会福井（福井県立大学）大会会計報告
- ✓ 資料：2022 年度収支計算書
- ✓ 資料：2023 年度収支計算書中間報告
- ✓ 資料：進化経済学会 2024 年度予算案
- ✓ 2023 年度部会報告
- ✓ 進化経済学の分野概略オンラインレクチャーシリーズのお知らせ
- ✓ 『進化経済学の現在と将来－日本からの視点』（英語）刊行のお知らせ
- ✓ EIER に関するご案内
- ✓ 編集後記

\*\*\*\*\*

## 第 28 回進化経済学会福井大会を終えて

実行委員会委員長・廣瀬弘毅（福井県立大学）

第 28 回の進化経済学会年次大会は、2024 年 3 月 16 日（土）、17 日（日）の 2 日間にわたって、福井県立大学永平寺キャンパス（福井県吉田郡永平寺町）を会場として、開催されました。今大会は、コロナ禍以前と同じく、「原則対面参加」とした大会となりました。折りしも、16 日は北陸新幹線の金沢～敦賀間の開業日と重なり、交通機関や宿泊施設の混雑等が懸念されましたが、蓋を開けてみると、大きな混乱もなく、皆さんをお迎えすることができました。また、新幹線が開業したとは言え、都市部ではない大学での開催と言うことになり、報告希望が少なくなってしまうのではないかという事前の予想が良い方向に裏切られることとなり、15 セッション、報告数 49（うちポスターセッション 6 報告）＋記念講演という前回は上回る盛会となりました。また、セッションのうち 2 つは海外と ZOOM で結ぶ国際セッションとなりました。ポスターセッションにおいても、対面参加形式が功を奏し、コアタイムでは活発な質疑応答が繰り広げられていました。なお、大会参加者は約 90 名で、ほぼ全員の方が 2 日間参加でした。

今大会は、「空間の進化経済学の現状と課題」をテーマとしておりました。オータムカンファレンスから引き続き、「経済地理学」を核として、理論的な発展の状況、その可能性、また応用の事例という全体像が見渡せるような共通セッションも設けられました。その結果、進化経済学における新たな発展の可能性を垣間見ることができたと感じました。他にも、本学会の多分野を連携するという特徴が遺憾なく発揮され、制度経済学、シミュレーション、経済学史・思想史、政策分析など多様な報告がなされました。

1 日目の報告後は、福井県立大学の県大レストランにて、懇親会が開催され、約 60 名の方に参加いただき、これも大変盛況となりました。対面での情報交流もこういった場で行われることを考えますと、意義深く感じました。

2 日目には、本年度学会賞を受賞された藤田菜々子会員による記念講演も開催されました。同氏は、スウェーデンの福祉国家思想研究の第 1 人者ですが、選考委員会の「一般読者にも開かれている」という評にもあるように、現実分析との関係も深い、当学会の特徴を示す講演となったと思います。

今回、福井駅から離れたキャンパスでの開催でしたが、幸いなことに、土日にもかかわらずバスを中心とする公共交通機関で参加者の移動が可能となっていました。しかし、このニューズレター原稿を執筆時点で、バスの減便についてバス会社から発表されるなど、地方の交通機関の置かれた状況は厳しさを増しています。また、eduroam への参加率がまだ高くない公立大学に特徴的なのかも知れませんが、学外者に対する WiFi による無線 LAN の開放が遅れています。こういった事情も含めて、地方に立地する大学での学会開催のハードルは少しずつ厳しさを増しているのかも知れませんが、しかし、そのことが学会の研究大会という大規模なアカデミックイベント開催の地域間格差を生み出すことは望ましいことではないように思います。

次回は、関西大学を会場として年次大会が開催されます。この大会が大きな成功を収められるよう祈念しております。

第 28 回進化経済学会福井大会の開催にあたっては、福井県立大学から学会開催補助を受けたことも

合わせて報告致します。最後になりましたが、報告者や参加者をはじめ、当日だけでなく、準備段階から協力して下さった関係各位に深い感謝を記して、報告を終えたいと思います。

## 第 29 回進化経済学会関西大会（関西大学） オータムカンファレンスのご案内

### テーマ：生成 AI と経済社会の共進化

われわれの社会に光と影をもたらすという意味で、Chat-GPT, copilot などの生成系 AI の急速な発展は諸刃の剣である。前者は人々の生産性を高め、様々な意思決定を支援するという福音をもたらす一方、後者は人々の仕事を奪う可能性であり、意思決定に弊害をもたらすかもしれない、という懸念がある。

生成系 AI が発展する中で、これらは様々な形で社会のあり方を変えつつある。生成系 AI の支援を受けて行った医療行為が医療事故となった場合、責任は医師にあるのか AI 作成者にあるのか。プラットフォームが生成系 AI を開発、設計することで経済学的にどのような問題が発生し、経済厚生を高めるためにはどのような制度設計を行えばよいのか。生成系 AI が人々の仕事を奪うことで生じる失業対策はどのようなものか。生成系 AI の性能向上という進化にあわせてわれわれの社会も進化する必要がある。今回のオータムカンファレンスでは、これをテーマにしたい。

なお、同様のテーマが 2019 年度大会(コロナ禍のため中止)、2022 年度大会において断続的に扱われてきた。これまでの学会の成果を踏まえつつ、本大会を実りのあるものにした。

日時

2024 年 9 月 21 日（土）

午後 1 時 20 分～：開会挨拶

午後 1 時 30 分～午後 3 時 40 分：講演者による報告（報告順未定）

坂地泰紀（北海道大学大学院情報科学研究院・准教授）

「言語モデルを用いた経済ナラティブインデックスの生成」

市川学（芝浦工業大学 システム理工学部環境システム学科・准教授）

TBA

西野成昭（東京大学 大学院工学系研究科技術経営戦略学専攻・教授）

TBA

水谷瑛嗣郎（関西大学社会学部・准教授）

「法は AI をガバナンスできるのか？（仮）」

午後 4 時～午後 5 時：パネルディスカッション

午後 5 時半～：懇親会（新関西大学会館内 チルコロ）

会場：関西大学千里山キャンパス第 3 学舎（社会学部）

## 第 28 回進化経済学会福井大会総会議事録

日時：2024 年 3 月 17 日（日）13:00~14:20

場所：福井県立大学 共通教育棟 L110

1. 議長の選出  
井出明会員を議長に選出した
2. 磯谷明德会長挨拶  
磯谷明德会長より福井大会開催に際して挨拶があった
3. 廣瀬弘毅大会実行委員長より開催状況報告  
廣瀬弘毅大会実行委員長より大会開催状況報告があった
4. 会勢報告 資料 1  
原田事務局担当理事より資料に基づき会勢について説明があった上で入退会について提案され、了承された
5. 2022 年度決算報告ならびに監査報告 資料 2  
西会計担当理事による説明、藤田監査担当理事による監査報告がそれぞれ行われ、2022 年度の会計決算報告が了承された
6. 2023 年度決算中間報告 資料 2  
西会計担当理事が 2023 年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された
7. 2024 年度予算について 資料 2  
西会計担当理事より 2024 年度の予算案について提案され、了承された
8. 第 9 回進化経済学会役員選挙の結果について 資料 3  
池田選挙管理委員長より資料に基づき役員選挙結果の報告があった
9. 2024~2026 年度執行部体制について 資料 4  
吉田次期会長より次期執行部体制が提案され、了承された
10. 第 9 回学会賞ならびに第 5 回奨励賞の募集について 資料 5  
遠山次期選考委員長より、第 9 回学会賞および第 5 回奨励賞の募集要項について報告があった
11. 学会銀行口座移管に伴う代表者並びに所在地の変更について 資料 6  
原田事務局担当理事より、学会代表者並びに所在地の変更に伴う会則改正が提案され、了承された
12. 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構における共同利用・共同研究拠点の継続要望書について 資料 7  
小川理事より資料に基づき共同利用・共同研究拠点について説明があり、執行部から継続要望書について提案され、了承された

### 1 3. 各種委員会報告

特になし

### 1 4. 次年度開催校について

小川一仁理事より次年度のオータムコンファレンスおよび本大会は関西大学で開催予定である旨報告があった。また大会実行委員長を高増明会員，事務局長を小川一仁理事が務め，オータムコンファレンスは2024年9月21日（土）に関西大学千里山キャンパスで実施することが報告された

### 1 5. 第8回学会賞・第4回奨励賞の発表と記念講演

第8回（2023年度）学会賞が、藤田菜々子会員の著書『社会をつくった経済学者たち：スウェーデン・モデルの構想から展開へ』（名古屋大学出版会 2022年）に授与されることが発表され、記念品が贈呈された。受賞した藤田会員による記念講演が行われた。

また第4回（2023年度）奨励賞は該当者なしとの報告があった。

文責：事務局担当理事 原田裕治

## 第 28 回進化経済学会福井大会理事会議事

日時：2024 年 3 月 16 日（土）12:00~12:45

場所：福井県立大学共通講義棟 L114 教室+オンライン配信

出席者：磯谷明德（会長）、吉田雅明（副会長）、廣瀬弘毅（大会実行委員長）、浅田統一郎、荒川章義、有賀裕二、池田毅、依田高典、植村博恭、宇仁宏幸、江頭進、岡敏弘、小川一仁、黒瀬一弘（監査）、瀬尾崇、遠山弘徳、徳丸宣穂、中原隆幸、鍋島直樹、西洋（会計）、西部忠、橋本敬、服部茂幸、藤田菜々子（監査）、藤本隆宏、宮崎義久、八木紀一郎、吉井哲、原田裕治（事務局）

欠席（委任状あり）：巖成男、

欠席（委任状なし）：佐々木啓明、澤邊紀生、塩沢由典、瀧澤弘和

オブザーバー：井出 明、谷口和久、藤田真哉、森岡真史、横田宏樹（以上、敬称略）

### 1. 報告

#### 1. 1 会長挨拶

磯谷会長より福井大会開催に際して挨拶があった

#### 1. 2 第 28 回福井大会参加状況について

大会実行委員長より大会開催状況報告があった

#### 1. 3 会勢報告

資料 1

原田事務局担当理事より資料に基づき会勢報告があった。また入退会者数のカウントミスによりこれまでの報告よりも会員数が 10 名ほど減ることについて謝罪と報告があった。

#### 1. 4 日本経済学会連合報告

資料 2

資料閲覧の形で評議会の報告があった

#### 1. 5 各部会報告

ニューズレターに掲載のため省略

#### 1. 6 各委員会報告

特になし

#### 1. 7 第 29 回大会について

小川一仁理事より次年度のオータムコンファレンスおよび本大会は関西大学で開催予定である旨報告があった。また大会実行委員長を高増明会員、事務局長を小川一仁理事が務め、オータムコンファレンスは 2024 年 9 月 21 日（土）に関西大学千里山キャンパスで実施することが報告された

### 2. 議題

#### 2. 1 入退会について

資料 1

原田事務局担当理事より入会希望者及び退会者の提案がなされ、提案通り了承された。



2. 2 2023 年度決算中間報告 資料 3  
西会計担当理事が 2023 年度の暫定的な会計決算報告を行い、了承された。
2. 3 2024 年度予算について 資料 3  
西会計担当理事が 2024 年度の予算案について説明を行い、了承された。  
EIER 出版契約の更新時期が近づいていることが磯谷会長から報告され、契約更新にあたっては、情勢を見極めつつ慎重に対応することが確認された。関連して Springer との Monograph シリーズの出版契約をうまく活用して学会の収益に貢献するすべを検討すべきとの意見が出された。
2. 4 進化経済学会賞・奨励賞選考委員会委員長並びに委員の交代について  
原田事務局担当理事より、次年度の学会賞・奨励賞選考委員会委員長並びに委員が、遠山弘徳(追手門学院大学) (委員長) (留任)、徳丸宣穂(関西大学) (留任)、小山友介(芝浦工業大学) (新任)、小林重人(札幌市立大学) (新任)の各氏となることが提案され、了承された。
2. 5 第 9 回学会賞および第 5 回奨励賞の募集要項について 資料 4  
原田事務局担当理事より、第 9 回学会賞および第 5 回奨励賞の募集要項について提案され、了承された。
2. 6 第 9 回進化経済学会役員選挙の結果について 資料 5  
池田選挙管理委員長より資料に基づき役員選挙結果の報告があった
2. 7 2024~2026 年度執行部体制について 資料 6  
吉田次期会長より次期執行部体制が提案され、了承された
2. 8 関西大学ソシオネットワーク戦略研究機構における共同利用・共同研究拠点の継続要望書について 資料 7  
小川理事より資料に基づき共同利用・共同研究拠点について説明があり、執行部から継続要望書について提案され、了承された
2. 9 フェロー選考委員会の立ち上げについて 資料 8  
原田事務局担当理事より、磯谷会長・吉田副会長からの推薦にもとづき、フェロー選考委員会を立ち上げ、荒川理事、有賀理事、西部理事が選考委員となることが提案され、了承された
2. 10 学会銀行口座移管に伴う代表者並びに所在地の変更について 資料 9  
原田事務局担当理事より、以下のような学会代表者並びに所在地の変更に伴う会則改正が提案され、了承された
- (変更前)  
(所在地) 大阪府寝屋川市池田中町 17-8 摂南大学経済学部 原田裕治研究室気付  
(代表) 進化経済学会 代表 磯谷 明徳
- (変更後)  
(所在地) 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号 関西大学政策創造学部 徳丸宣穂研

究室気付

(代表) 進化経済学会 代表 吉田 雅明

3. その他

なし

文責：事務局担当理事 原田裕治

## 進化経済学会会勢状況

2023年9月16日 時点

個人会員	312	(体会4含む)
個人終身正会員	19	
院生会員	37	(体会3含む)
賛助会員/団体	0	
賛助会員/特別	0	
招待会員	2	
個人準会員	0	
370		

2024年4月1日 時点

個人会員	291	(体会3含む)
個人終身正会員	22	
院生会員	35	(体会3含む)
賛助会員/団体	0	
賛助会員/特別	0	
招待会員	2	
個人準会員	0	
350		

第 28 回進化経済学会福井（福井県立大学）大会 会計報告

2024 年 3 月 16 日会計担当理事

西 洋（阪南大学）

1. 2022 年度（令和 4 年度）収支計算報告

- ・ 資料 1「監査済 2022 年度収支計算書決算報告」参照

2. 2023 年度（令和 5 年度）収支計算中間報告（2023/4/1～2024/2/20）

- ・ 具体的な内訳については資料 2「2023 年度収支計算書中間報告」参照

【収入と支出：2023/4/1～2024/2/20】

収入	23 年度			支出	23 年度		
	予算案	決済額	増減		予算案	決済額	増減
当期収入合計	2,604,000	2,434,428	-169,572	当期支出合計	4,127,000	2,398,540	-1,728,460
前期繰越金	5,505,227	5,505,227	0	繰越金	3,982,227	5,541,115	1,558,888
総計	8,109,227	7,939,655	-169,572	総計	8,109,227	7,939,655	-169,572

【貸借対照表：2023/4/1～2024/2/20】

借方		貸方	
普通預金	284,329	前受会費	40,000
郵便振替	4,896,786	前期繰越金	5,505,227
コンビニ払い未入金	0		
仮払金	400,000	当期差益	35,888
合計	5,581,115	合計	5,581,115

【収入と支出：2023/4/1～2024/2/31 見込みについては資料 2 を参照】

### 3. 2024 年度（令和6 年度）予算案

- ・ 具体的な内訳については資料3「進化経済学会 2024 年度予算（案）」参照

	収入			支出			
	24 年度 予算案	(参考) 23 年度	増減	24 年度 予算案	(参考) 23 年度	増減	
前期繰越金	6,022,392	5,696,267	326,125	当期支出合計	4,070,000	4,127,000	-57,000
収入	2,804,000	2,604,000	200,000	繰越金	4,756,392	4,173,267	583,125
総計	8,826,392	8,300,267	526,125	総計	8,826,392	8,300,267	526,125

#### 【収入・支出項目についての変更点や注意】

- ・ 大会収入はオータムカンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭に今年度と同額の収入を計上（参考：コロナ禍（2022 年度）ではオータム 5 万円，本大会 15 万円）。
- ・ 2 年連続で支出実績が予算の半分に満たなかった項目のうち通信費，謝金，送金手数料は 16,000 円から 15,000 円へ，事務用品費は 64,000 円から 60,000 円に減額。
- ・ 事務委託費の 2023 年度実績は，150,000 円程度であるが，ゆとりを持たせて 300,000 円を計上。（2021 年度まで約 650,000 円を計上，22 年度は 350,000 円を計上）。

以上

進化経済学会

2022年度 収支計算書  
(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

取入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	
会費	2,767,000	2,575,110	-191,890	大会費	1,100,000	539,234	-560,766	
正会員当該年度	2,600,000	1,950,110	-649,890	オータム・コンファレンス	400,000	36,000	-364,000	
正会員過年度分	0	310,000	310,000	本大会	700,000	503,234	-196,766	
終身正会員当該年度	50,000	150,000	100,000	英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0	
院生会員当該年度	105,000	65,000	-40,000	通信費	20,000	5,568	-14,432	
院生会員過年度分	0	25,000	25,000	交通費	0	0	0	
準会員	2,000	0	-2,000	事務用品費	80,000	20,681	-59,319	
賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	20,000	0	-20,000	
JAFEE遺言寄付	0	0	0	送金手数料	20,000	7,065	-12,935	
その他(前受会費：預り金)	10,000	75,000	65,000	会議費	0	0	0	
大会取入	200,000	643,003	443,003	印刷費	0	0	0	
オータム・コンファレンス	50,000	76,501	26,501	事務委託費	450,000	253,277	-196,723	
本大会	150,000	566,502	416,502	国際交流費	0	0	0	
利息	0	3	3	部会補助費	150,000	34,540	-115,460	
寄付金	0	20,000	20,000	経済学会連合会費	35,000	35,000	0	
書籍売却代	0	0	0	学会費	100,000	50,000	-50,000	
定期購読料	0	0	0	振替票送付代	0	550	550	
利用料	『進化経済学ハンドブック』	6,000	3,114	-2,886	0	0	0	
印税収入	ジュブリンガー→モノグラフS	28,000	38,986	10,986	予備費	100,000	23,520	-76,480
当期収入合計		3,001,000	3,280,216	279,216	当期支出合計	4,275,000	3,169,435	-1,105,565
前期繰越金		5,394,446	5,394,446	0	繰越金	4,120,446	5,505,227	1,384,781
総計		8,395,446	8,674,662	279,216	総計	8,395,446	8,674,662	279,216

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2023年 7月 25日 黒瀬 一弘

進化経済学会監査委員

上記の通り相違がないことを確認いたしました

2023年 7月 29日 勝田 菜々子

進化経済学会監査委員

貸借対照表  
(2023年3月31日現在)

(単位：円)

借方	貸方		
I. 流動資産	II. 流動負債		
現金	前受会費	10,000	
預金			
普通預金			
郵便振替			
未収金	503,769	III. 正味財産	
		次期繰越金	
		前期繰越金	5,394,446
		当期差益	110,781
合計	5,515,227	合計	5,515,227

財産目録  
(2023年3月31日現在)

(単位：円)

科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(天竺出張所)	137,540
	学会事務局(国際文献)	郵便振替口座	4,873,918
未収金	前大会残金		503,769
	27		
資産合計			5,515,227

(負債および正味財産の部)

(単位：円)

科目	適用	金額
流動負債		10,000
前受会費		10,000
負債合計		10,000
正味財産合計		
	前期繰越金	5,394,446
	当期収支差額	110,781
負債及び正味財産合計		5,515,227

進化経済学会

2023年度 収支計算書中間報告  
(2023年4月1日～2024年2月20日)

(単位：円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	
会費	2,170,000	2,395,000	225,000	大会費	1,100,000	0	-1,100,000	
正会員当該年度	1,950,000	1,860,000	-90,000	オータム・コンファレンス	400,000	0	-400,000	
正会員過年度分	0	360,000	360,000	本大会	700,000	0	-700,000	
終身正会員当該年度	150,000	90,000	-60,000	英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0	
院生会員当該年度	50,000	50,000	0	通信費	16,000	5,568	-10,432	
院生会員過年度分	0	25,000	25,000	交通費	0	0	0	
準会員	0	0	0	事務用品費	64,000	0	-64,000	
賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	16,000	0	-16,000	
JAFEE通貨寄付	0	0	0	送金手数料	16,000	5,470	-10,530	
その他(前受会費：預り金)	20,000	10,000	-10,000	会議費	0	0	0	
大会収入	400,000	0	-400,000	印刷費	0	0	0	
オータム・コンファレンス	100,000	0	-100,000	事務委託費	350,000	150,700	-199,300	
本大会	300,000	0	-300,000	国際交流費	0	0	0	
利息	0	3	3	部会補助費	150,000	0	-150,000	
寄付金	0	0	0	経済学会連合会費	35,000	35,000	0	
書籍売却代	0	0	0	学費賞	100,000	0	-100,000	
定期購読料	0	0	0	振替票送付代	0	0	0	
利用料	「進化経済学ハンドブック」	6,000	1,038	-4,962	予備費	80,000	1,802	-78,198
印税収入	シュプリンガー・モノグラフ S.	28,000	38,387	10,387	当期支出合計	4,127,000	2,398,540	-1,728,460
当期収入合計	2,604,000	2,434,428	-169,572	繰越金	3,982,227	5,541,115	1,558,888	
前期繰越金	5,505,227	5,505,227	0	総計	8,109,227	7,939,655	-169,572	
総計	8,109,227	7,939,655	-169,572					

2023年度 収支計算書中間報告(2024年3月31日時点の見込み)  
(2023年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

収入	予算案	決算額	増減	支出	予算案	決算額	増減	
会費	2,170,000	2,395,000	225,000	大会費	1,100,000	500,000	-600,000	
正会員当該年度	1,950,000	1,860,000	-90,000	オータム・コンファレンス	400,000	30,000	-370,000	
正会員過年度分	0	360,000	360,000	本大会	700,000	470,000	-230,000	
終身正会員当該年度	150,000	90,000	-60,000	英文誌編集刊行費	2,200,000	2,200,000	0	
院生会員当該年度	50,000	50,000	0	通信費	16,000	5,568	-10,432	
院生会員過年度分	0	25,000	25,000	交通費	0	0	0	
準会員	0	0	0	事務用品費	64,000	8,283	-55,717	
賛助会員当該年度	0	0	0	謝金	16,000	0	-16,000	
JAFEE通貨寄付	0	0	0	送金手数料	16,000	5,910	-10,090	
その他(前受会費：預り金)	20,000	10,000	-10,000	会議費	0	0	0	
大会収入	400,000	1,070,000	670,000	印刷費	0	0	0	
オータム・コンファレンス	100,000	640,000	540,000	事務委託費	350,000	150,700	-199,300	
本大会	300,000	430,000	130,000	国際交流費	0	0	0	
利息	0	3	3	部会補助費	150,000	40,000	-110,000	
寄付金	0	0	0	経済学会連合会費	35,000	35,000	0	
書籍売却代	0	0	0	学費賞	100,000	50,000	-50,000	
定期購読料	0	0	0	振替票送付代	0	0	0	
利用料	「進化経済学ハンドブック」	6,000	1,038	-4,962	予備費	80,000	1,802	-78,198
印税収入	シュプリンガー・モノグラフ S.	28,000	38,387	10,387	当期支出合計	4,127,000	2,997,263	-1,129,737
当期収入合計	2,604,000	3,514,428	910,428	繰越金	3,982,227	6,022,392	2,040,165	
前期繰越金	5,505,227	5,505,227	0	総計	8,109,227	9,019,655	910,428	
総計	8,109,227	9,019,655	910,428					

【注記】

- 本報告書は以下の4点
  - 2023年度 収支計算書中間報告 (2023年4月1日～2024年2月20日)
  - 2023年度 収支計算書中間報告 (2024年3月31日の見込み)
  - 貸借対照表 (2024年2月20日時点)
  - 財産目録 (2024年2月20日時点)
- 収支計算書について、「会費」は2024年2月20日時点と2024年3月31日時点での実現値を同額計上しているが、3月中の納付によって微増する。
- 収支計算書について、「大会収入」と「大会費」は2024年3月12日までに大会実行委員会から報告があった金額を計上している。2023年度オータムコンファレンスおよび本大会の実際の収入・支出額は、大会実行委員会からの収支報告を受け次第確定する。
- 収支計算書について、「進化経済学ハンドブック」と「シュプリンガー・モノグラフS」の印税収入は2023年4月以降に収入があったものを記載している。
- 収支計算書について、終身会員当該年度90,000円は終身会員会費5万円のうち2023度の支払い額は4万円、残りの1万円は22年度(前年度)に、23年度会費として前受金1万円を差し引いたもの(この前受金1万円は「その他(前受会費：預り金)」に記載)。
- 貸借対照表と財産目録について、2024年2月20日時点では「コンビニ払い未入金」はなし。

貸借対照表  
(2024年2月20日現在)

(単位：円)

借方	貸方
I.流動資産	II.流動負債
現金	前受会費
	40,000
預金	
普通預金	284,329
郵便振替	4,896,786
コンビニ払い未入金	0
仮払金	III.正味財産
400,000	
	次期繰越金
	前期繰越金
	5,505,227
	当期差益
	35,888
合計	合計
5,581,115	5,581,115

財産目録  
(2024年2月15日現在)

(単位：円)

科目	管理部門	金融機関	金額
流動資産			
現金			
預金	会計担当理事	りそな銀行(天美出張所)	284,329
	学会事務局(国際文献)	郵便振替口座	4,896,786
	サウト	コンビニ払い未入金	0
仮払金	大会準備金		400,000
資産合計			5,581,115

(負債および正味財産の部) (単位：円)

科目	通用	金額
流動負債		
前受会費		40,000
負債合計		40,000
正味財産合計		
	前期繰越金	5,505,227
	当期収支差額	35,888
負債及び正味財産合計		5,581,115

進化経済学会 2024年度予算（案）

（2024年4月1日 ～ 2025年3月31日）

（単位：円）

収入予算		予算額	支出予算		予算額
2023年度からの繰越（見込）		6,022,392	大会費		1,100,000
			（内訳）		
			オータムコンファレンス		400,000
			本大会		700,000
			英文誌編集刊行費		2,200,000
会費		2,370,000			
（内訳）					
正会員		1,860,000	通信費		15,000
終身正会員（同上）		360,000	事務用品費		60,000
院生会員（同上）		90,000	謝金		15,000
準会員（同上）		50,000	送金手数料		15,000
賛助会員（同上）		0			
JAFEE通貨寄付（同上）		0	事務委託費		300,000
その他（前受会費）		10,000			
大会収入		400,000			
（内訳）			部会補助費		150,000
オータムコンファレンス		100,000	学会賞		100,000
本大会		300,000	経済学会連合会費		35,000
書籍売却代（見込）		0	予備費		80,000
定期購読料（同上）		0	小計		4,070,000
利用料（同上）		進化経済学ハンドブック	6,000		
印税（同上）		シュプリンガー・モノグラフS.	28,000	2025年度への繰越	
総計		8,826,392	総計		8,826,392

【注記：当初予算】

収入側

- 繰越金と会費収入は2024年2月20日時点での実現値を計上しているが、年度末にかけての納付によって微増する（ここに過年度分の支払いも加わる）。
- 大会収入はオータムコンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭に今年度と同額の収入を計上（参考：コロナ禍2022年度ではオータム5万円、本大会15万円）。
- 2021年度から新項目として、利用料（進化経済学ハンドブック）および印税（シュプリンガー・モノグラフシリーズ）を設置。
- 2022年度から新項目として、JAFEE通貨寄付を設置（ただし2024年度は円とのリンクはない予定）。
- 2024年度にむけて、2023年度からの前受会費が1件10,000円あり。これを会費収入に含めている。

支出側

- 大会費はオータムコンファレンス、本大会ともに対面実施を念頭に計上。
- 英文誌編集刊行費、部会補助費、学会賞、経済学会連合会費は、学会活動の本質かつ定額支出が予想されているため、前年度予算額を計上。
- 直近2年連続で支出実績が予算の半分に満たなかった項目のうち通信費、謝金、送金手数料は16,000円から15,000円へ、事務用品費は64,000円から60,000円に減額。
- 事務委託費の2023年度実績は、150,000円程度であるが、ややゆとりを持たせて300,000円を計上。（2021年度まで650,000円を計上、22年度は350,000円を計上）。



## 2023 年度部会報告

### 制度と統治部会

#### 進化経済学会・「制度と統治」部会・2023 年度第 1 回研究会

・日時：2023 年 6 月 17 日（土曜日）15:00～17:00

・会場：場所：追手門学院大学・総持寺キャンパス 441 教室

(<https://www.otemon.ac.jp/guide/campus/access.html>)

・テーマ：「トルコの経済的ポピュリズム—コモンズ的アプローチ—」

・プログラム： 司会：宇仁宏幸（追手門学院大学）

☆ 15:00～16:00 報告者：エムレ・ウナル（九州大学都市研究センター学術研究員）

☆ 16:00～16:30 コメント：北川亘太（関西大学）

☆ 16:30～17:00 全体討論

#### 2. 進化経済学会・「制度と統治部会」・2023 年度第 2 回研究会（ハイブリッド開催）

・日時：2023 年 9 月 24 日（日曜日）13:00～17:00

・会場：：関西大学 梅田キャンパス（701 教室） (<https://kandai-merise.jp/access/>)

・テーマ：「小林純・中山智香子訳、G.F.クナップ著『貨幣の国家理論』合評会」

（書籍情報 <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b604724.html>）

・プログラム： 司会：北川亘太（関西大学）

☆ 13:00～14:00 第一部 訳者のご報告

小林純（立教大学）：「クナップ『本位貨幣』論の扱いづらさ—この沈黙状況をどう読むか」

中山智香子（東京外国語大学）：「グローバルな文脈における貨幣の国家理論—クナップと MMT」

☆ 14:15～15:45 第二部 書評

佐藤一光（東京経済大学）：「貨幣の価値から切り離された購買力と本位間相場」

宇仁宏幸（追手門学院大学）：「『貨幣の国家理論』を読む—J. R. コモンズのクナップ評価を中心に」

● 16:00～17:00 訳者からのリプライと全体討論

#### 3. 進化経済学会・「制度と統治部会」・2023 年度第 3 回研究会

（立教大学経済研究所・国際部会ワークショップ研究会と共催）

・日時：2024 年 1 月 6 日（土曜日）14:00～18:00

・場所：立教大学（池袋）・12 号館 4 階経済学部共同研究室

・テーマ：「プラットフォーム資本主義—その本質、実態、そしてゆくえ—」

（参考書：水嶋一憲・ケイン樹里安・妹尾麻美・山本泰三編著著；金塚永・宇田川敦史・久保友香・佐幸

信介・山川俊和・中野理・水越伸・勝野正博著、『プラットフォーム資本主義を解説する』 ナカニシヤ出版、2023) (<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b10031736.html>)

・プログラム：

司会：巖成男（立教大学）

- ☆ 14：00～14：40 第一報告：山本泰三（大阪産業大学）  
「現代資本主義論の問題としてのプラットフォーム」
- ☆ 14：40～15：20 第二報告：金峻永（韓国雇用情報院）  
「プラットフォーム資本主義における雇用と労働」
- ☆ 15：20～16：00 第三報告：山川俊和（桃山学院大学）  
「プラットフォーム資本主義における環境・エネルギー問題」
- ☆ 16：00～16：40 第四報告：今井慧仁（京都大学・院）  
「プラットフォーム資本主義と米中覇競争」
- 16：40～16：50 休憩
- 16：50～18：00 全体ディスカッション

文責：巖成男（立教大学・部会事務局）

## 観光学研究部会

2023年度観光学研究部会は以下の研究会活動と本大会における企画セッションを行った。

### 第50回記念研究会

開催日 2023年4月7日（金）

場所 新潟国際情報大学 新潟中央キャンパス

【招待講演】吉澤文寿（新潟国際情報大学）「佐渡鉱山朝鮮人労働者をめぐる歴史研究の現況」  
コメンテーター アンドルー・ゴードン（ハーバード大学）

### 第51回研究会

開催日 2023年9月21日（木）

場所 金沢大学サテライト・プラザ1F

【招待講演】 Patrick Grüneberg（Kanazawa University） "Relations are intelligent" - considering the meaning of AI for the Hokuriku regional development. Lessons from Japanese philosophy

### 第52回研究会

開催日 2024年3月15日（金）

場所 福井市吟楽

共催 （一社）金沢芸術文化研究所

テーマ 「太鼓持ち（幫間）研究の現在」

公演 太鼓持ちあらい 太鼓芸

コメンテーター 田中雅一（国際ファッション専門職大学）

本大会企画セッション

「サービス空間の再定義—太鼓持ち（幫間）に関する学際的総合研究が持つ現代的意義」

司会 出口竜也（和歌山大学）

井出明（金沢大学）「太鼓持ち（幫間）から広がるサービス研究の学際性」

谷口功一（東京都立大学） 「夜の公共性」

八巻恵子（就実大学）「グローバル空間のサービスデザイン —国際線航空機の文化創造についての経営人類学的研究」

いずれも高度な学際的コラボレーションが実現し、進化経済学会ならではの議論が展開された。

## 北海道・東北部会

進化経済学会北海道・東北部会は 2023 年度、以下の活動を行いましたのでご報告申し上げます。

2024 年 2 月 18 日（10:30-17:00）に東北大学川内キャンパスにて 2023 年度進化経済学会北海道・東北部会を開催しました。

【第 1 報告】小池（相原）晴伴（酪農学園大学）「『経済原論』の講義での「搾取」と「再生産」の説明の単純化」

【第 2 報告】小林大州介（星槎道都大学）「無形資産とシュンペーターの革新概念」

【第 3 報告】江頭 進（小樽商科大学）「港湾都市における共進化構造」

【第 4 報告】吉田昌幸（上越教育大学）「木質バイオマス熱利用と地域社会の循環を高めるデジタル地域通貨の構想：山形県最上町の導入実験」

【第 5 報告】吉地 望（北海道武蔵女子短期大学）「経済社会ネットワーク分析について」

東北での部会開催は 2008 年以來 16 年ぶりの開催となり、報告者を含めて 10 名の参加者が集まった。経済学教育、経済学史、社会ネットワーク分析、社会実践等、今年度も進化経済学に関わる研究領域から多様な報告がなされ、活発な議論が行われた。

なお、2024 年度から部会長を吉地望会員から小林に交代し、それに伴い事務局長を宮崎義久会員が務めることとなった。次回開催は北海道北広島市にキャンパスがある星槎道都大学での開催を検討している。

文責 小林 重人（札幌市立大学）

## 現代日本の経済制度部会

### 第1回研究会

日時：2023年6月18日（日）14:00-17:30

テーマ：A prologue to political economy of institutions and evolution: multi-layered regulation and dynamic diversity

場所：名古屋市立大学

プログラム：

14:00～14:40 植村博恭（横浜国立大学・名）「制度と進化の政治経済学：日本の制度派の継承と21世紀の発展」

14:40～15:10 植村博恭（横浜国立大学・名）・磯谷明德（下関市立大学）「『制度と進化の政治経済学』の発展版をめぐっての理論的・実証的テーマ」

休憩

15:30～17:00 参加者全員「『制度と進化の政治経済学』の発展版における寄稿内容の要旨および論点の追加」

17:00～17:30 ディスカッション・スケジューリング

### 第2回研究会

日時：2023年9月23日（土）16:30～18:30(JST)

場所：Zoom online（完全オンラインミーティングです）

テーマ：科学技術の発達と福祉・介護を原動力とする成長モデルの可能性

プログラム：

Sébastien Lechevalier (EHESS, International Senior Fellow CIGS) “Implementing Society 5.0: towards a care-led innovation model in Japan?”

### 第3回研究会

日時：2024年2月3日（土）13:30～17:00

場所：名古屋大学経済学部棟2階第三講義室

テーマ：福祉国家研究の現在

プログラム：

13:30 - 13:35 はじめに

13:35 - 14:30 加藤雅俊（立命館大学）「比較福祉国家研究の到達点と課題－政治学からの問題提起－」

14:35 - 15:30 倉地真太郎（明治大学）「デンマークのイノベーティブな財政－「企業家としての国家」を構想する－」

15:50 - 17:00 フロア討論

### 第4回研究会

日時：2024年3月22日（金）14:00～17:00

場所：名古屋大学経済学部棟 4 階：420 演習室（会場での対面方式のみ：オンライン配信はしない）

テーマ：中国経済の政治経済学

プログラム：

14:00～14:50 宋 磊（北京大学）「中国経済研究における政策、主義と補完性：市場経済多様性論の視点」

14:55～15:45 中屋信彦（名古屋大学）「中国国有企業の政治経済学」

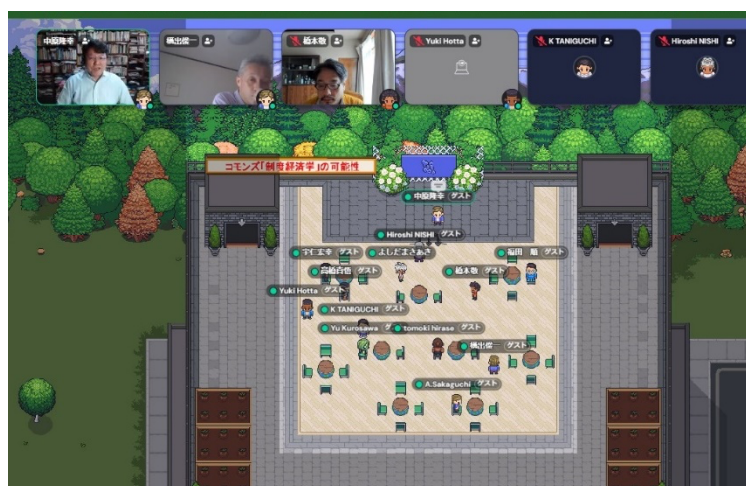
休憩(15分程度)

16:00～17:00 フロア討論

## 「進化経済学の分野概略オンラインレクチャーシリーズはじまる」

進化経済学会も設立から 30 年近くになり、先日の大会でもさまざまなジャンルでの研究の深まりを目の当たりにすることができまして、それは嬉しいかぎりなのですが、その一方で専門化が進むにつれて見渡すことが困難になり、設立当初の強みであった、異分野融合で1つのテーマで盛り上がるのが難しくなっているのではないかと危惧するところでもあります。

そこで、初心に戻り、専門的理解とまではいなくてもせめてそのジャンルでなにが面白いのか、共感できるような土壌を意識的に再生していこう、というのがこの分野概略オンラインレクチャーシリーズです。



6月1日にはその第一弾で、「J. R. コモンズ「制度経済学」の可能性：領域横断的進化経済学の始原を探る」と題しまして、部会運営にあたってこられた中原隆幸会員に、ジャンル外の方にもわかるようにお話しいただきました。ヴェブレンの影に隠れがちなコモンズ(1862-1945)ですが、理論的純化に向かっていった経済学の大勢とは真逆に、制度は集団に属するわたしたちがどのように行為するといいいのかという焦点を与えているという観点から、その包括的

な研究を行いました。適正価値論、債務論、といったきわめて今日的なテーマを含むコモンズの議論は、幹の部分の話をしていただかと思えば、ひたすら枝葉の話が続くというように、けっして読みやすいものではないのですが、そこをあえて「森を見せよう」という中原レクチャーに、一同「そういうことなのかー」とコモンズ向学心を大いにかき立てられました。

今回は土曜の朝のレクチャー&お茶会という趣向でしたが、今後、金曜の夜のレクチャー&飲み会も企画しますのでどうぞご期待下さい！

(文：吉田雅明)

## 『進化経済学の現在と将来－日本からの視点』を英語で刊行します

Springer社と契約している Evolutionary Economics and Social Complexity Science 叢書中の1巻として、昨年から *Present and Future of Evolutionary Economics: Japanese Perspectives* を準備してきました。進化経済学の最近のリーディングスや展望書としては、A. Pyka and K. Dopfer eds., *Evolutionary Economics*, 4 vols., Routledge, 2019, R. Nelson ed., *Modern Evolutionary Economics: An Overview*, Cambridge U. P., 2018, U. Witt and A. Chai eds., *Understanding Economic Change: Advances in Evolutionary Economics*, Cambridge U.P., 2019, K. Dopfer ed., *The Evolutionary Foundations of Economics*, Cambridge U. P., 2005 など多数ありますが、日本での研究動向は十分に取り入れられていません。そのため、創立後四半世紀をへた本学会の成果と課題を確認しながら、それを国際的に発信したいと思いました。

5名の編集委員(有賀裕二・磯谷明德・塩沢由典・西部忠・八木紀一郎)で構成と執筆者を協議し、本年3月末に以下のような構成で Springer社に原稿を手渡しました。今秋中には刊行されると思いますので、その際にご検討・ご批判をお願いします。

\*\*\*\*\*

Introduction: Evolutionary Economics in Japan (Editors)

### 第1部 理論編

– A Transdisciplinary Approach to Evolutionary Economics: An Integrated Science of Economics and Biology (Makoto Nishibe)

– On the Problem of Institutions in Evolutionary Economics (Akinori Isogai)

Evolutionary Understanding of Capitalist Product Markets: Adaptation-facilitating and Diversification-accelerating Functions (Masashi Morioka)

– Microstructure of a Quantity Adjustment Economy (Kazuhiisa Taniguchi)

– An Evolutionary Inference of Optimal Selection in view of Dynamic Programming and Reinforcement (Yuji Aruka)

### 第II部 実証的研究

– Behavioral Economics and its Applications for Energy Consumption (Takanori Ida and Yoshiaki Ushifusa)

– Production Economy and Industry Studies (Takahiro Fujimoto)

– From National Innovation System to Public Sphere for Innovation:

Mission-oriented Innovation Policy and the Changing Institutional Configuration (Norio Tokumaru)

– Evolutionary Perspectives in the Research of Economic History (Kiichiro Yagi)

\*\*\*\*\*

これを編集しながら感じたことは、2つです。

第1は、理論・実証の両面における学会内外の研究における協働が必要だということです。学会創立の10年目に刊行された『進化経済学ハンドブック』(共立出版、2006年)は、約百名もの会員・非会員の協働作業の成果でした。それは、理論・学説だけでなく、進化の「事例」も含んでいました。この四半世紀の

あいだの社会経済にも、多くの予想外の「進化」が現実起きています。それらは理論研究にも課題をなげかけています。学会の役割は、会員の協働によって理論と実証（歴史のおよび仮想的進化）の相互作用を生み出すことにあるでしょう。

その第2は、進化経済学の教育面での課題です。進化経済学が、アカデミズムにおいてマージナルな位置から脱するためには、また、それ以上に、研究者の利害問題を超えて、市民のコモンセンス形成に有意義なものとなるためには、その立場・学説・知見を学部教育レベル、市民学習レベルで活かすための具体化作業が必要です。この2つは、「進化経済学」自体の「進化」を具体的に示すような試練的な課題です。なお、EIERの最新号（vol. 21-1）では経済学教育の特集をおこない、5点の論文を掲載しています。この2つの課題に向けた会員諸氏の協働と挑戦に期待します。

2024年6月1日

八木紀一郎



**EIER をステップにして国際的に活躍しましょう**  
—英文論文の執筆・公表に際しての語学障壁は崩れはじめています—

進化経済学会会員のみなさま


1. 進化経済学会は英文国際誌 *Evolutionary and Institutional Economics Review* (EIER) を所有し、それを国際的な出版社 Springer 社 から電子ジャーナルおよび紙冊子の学術誌として刊行しています。Springer 社からも、その発展を期待されていて、掲載論文の点数や、その質や反響に顕著な進歩が見られるならば、毎年支払っている刊行委託費の減額も考えられると言われていています。去年の vol. 20 は 2 号併せて論文 22 点、総 455 ページでしたが、まだまだ他誌と比べて見劣りします。今年 vol. 21 (1) に至っては、掲載論文 8 点で 145 ページというお寒い状態に陥りました。EIER 誌は、本学会の趣旨にしたがって編集されているオープンジャーナルで、海外からの投稿を積極的に受け入れています。それと同時に、基盤となる本学会の会員諸兄姉の研究成果公表の場としても役立ちたいと思います。

2. 多くの日本人会員の方は、慣れ親しんだ日本語での執筆や、制約が少なく親切なケアを期待できる日本語媒体（所属学術機関のホームジャーナルなど）での公表を好まれると思いますが、やはり皆様には積極的に国際的にもご活躍いただきたいと思います。Springer Journals の列に加わっている EIER はそのステップになります。

EIER 誌は、公表されたその編集方針で、日本語のような非国際的な言語で公表済の研究成果も、それを明記すれば受理・掲載できると公表しています。ですから、日本語で既発表の論文でも、その後の討論・検討内容とともに国際的な公表に必要な修正を加えるなら、それを英文化した原稿を受け付けることができます。

3. 英語での論文執筆や既発表研究成果の英文化に際しての語学的あるいはテクニカルな障壁は、AI の発展・実用化にともない、近年劇的に崩れ始めています。Google 翻訳もありますが、DeepL を用いれば、2-30 頁ある日本語の原稿も 1 分足らずで英文化されます。自分で英文を書く際に Grammarly を用いれば、ケアレスミスを修正してくれるだけでなく、構文にも及ぶ改善案を提案してくれます。どちらも試用のための無料版を提供していますし、有料版も期間を限定して使用すれば高い金額にはなりません。私の使用経験では、これらの AI プログラムの校閲性能は、私が過去に利用していた英文校閲サービスの廉価版と同程度のレベルだと思います。もちろん校閲サービス業者も現在では AI を用いてレベルアップしているでしょうし、特に関連領域に詳しい校閲者が得られるなら、論文の内容・形式・論証自体も改善できるので、そのようなサービスが受けられるに越したことはありません。しかし、上級の校閲サービスを受けるための料金は、恵まれた研究条件のある学術機関に所属している研究者でなければ、いつでも支出できるわけではないでしょう。

4. Springer 社のような国際出版社も、非英語圏からの、あるいは英語の non-native speaker の投稿者への対応を考慮しています。それを紹介しましょう。

まず SpringerLink ([link.springer.com](http://link.springer.com))から。（このページの右上にある  Account の欄は、JAFEE のアソ

シエーションコードを登録するときに利用しますね。) このページを、Publish with us ⇒ Publish an article ⇒ Author support for publishing ⇒ Author Services とたどると、Nature Research Editing Services と提携している **AJE Services** の案内が示されます。前者では、\$87 から始まる English language Editing と \$1,500 (高い!!) から始まる Scientific Editing が紹介されています。**AJE Services** の方は、15% の割引があるらしいですが、まだまだ高価ですね。

同じ Springer Link 内の EIER のサイト ([link.springer.com/journal/40844](http://link.springer.com/journal/40844)) でその右側にある For Authors を探索してみましょう。そこで Language editing services を選択すると、先に Springer Link から入った場合と同様の Author Services が示されます。しかし、EIER サイトの右側をさらに下に行くと黒板を前にした女性研究者の写真の下に、Language quality checker (Get your manuscript edited for free) というコーナーがあります。こんなコーナーを設けたのは大英断だと思って、ここを探ってみました。

このコーナーに入ると、Is your English writing ready for submission? という項目の下に、**Curie** という校閲サービスの案内があります。これに、自分の Email address を書き込み、ファイルを upload すると edited version Curie を送り返してくれると書いてあります。たしかに、**Curie** を subscribe すると、Try Curie for free というボタンがありますので、それを利用しろということでしょう。これは Springer が無償で提供してくれているサービスですが、対話・改善型ではありませんから、英文原稿を完成した最終段階で点検のために用いるのがいいでしょう。

5. ここでは、Springer 社の Editing service をとりあげましたが、Springer Link や EIER ページから入る Submission Guidelines や英文執筆の Tutorials も有益です。Springer 社は *Nature* 誌をも傘下におさめた野心的な出版社で、日進月歩の自然科学系の学術界での議論や基準を出版方針の中に取り入れるのに熱心です。そのため、EIER 誌の投稿・校正・公表や編集にかかわる Editorial Manager のオンライン操作にも、私達にはなじみのない手順が入っています。しかし、自然科学系の学術界の議論や基準が、人文・社会系、とくに経済学系に及んでくるのは必至です。Springer 社の推奨する英文成果公表の基準・スタイル・プロセスを知っておくことは、将来の研究者のサバイバルと活躍にも役立つことでしょう。

EIER Coordinating Editor 八木紀一郎

## 編集後記

残暑見舞い申し上げます。

南海トラフ地震臨時情報や台風、それらに伴う交通網への影響など、夏休みそしてお盆という人が動く時期に日本はこれまでに経験したことのない状況に直面しました。特に、関東を直撃した台風は、日本全国の人々の移動に大きな影響がありました。3月に開催された福井大会の期間に北陸新幹線が延伸されましたが、今回、日本の交通網について身をもって考えさせられる機会でした。

さて、日本全国でまだまだ暑い日が続きますが、みなさま、お体をどうぞご自愛下さい。

ニューズレター編集担当 横田宏樹（静岡大学）